

# 第8節 家 庭

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 家庭編 (H29) 及び埼玉県小学校教育課程編成要領 (H30) を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、家庭科における指導計画の作成から学習評価の考え方、学習指導、評価を行い、改善を図る一連のP D C Aサイクルまでを系統的かつ具体的に取り上げて作成し、示している。
- (2) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育む指導と評価を充実させることを目指す。

### 2 取り上げた内容

#### 第1 本資料の活用について

#### 第2 家庭科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる指導の工夫について
- 3 家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 4 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る指導計画の作成について
- 5 観点別学習状況の評価の観点について
- 6 家庭科における学習評価の手順
- 7 評価規準の設定について
- 8 具体的な評価方法とその例

#### 第3 指導と評価の計画及び改善

- 1 本題材の計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 本時の学習指導と評価及び授業改善
- 3 学習指導・評価の実際
- 4 学習評価の具体例

#### 第4 家庭科における学習評価の評定への総括例

- 1 題材終了時の観点別学習状況の評価の例
- 2 学期末・学年末の観点別学習状況の評価及び評定への総括例

### 3 本資料の活用にあたって配慮すること

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善  
教師が自ら指導を調整する視点でP D C Aサイクルを活用し、授業改善を図るようにする。
- (2) 資質・能力の育成に向けた授業づくり  
実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れるようにする。
- (3) 児童や学校の実態を踏まえた適切な学習活動  
児童や学校の実態を踏まえて本資料を活用するとともに、プライバシーに十分配慮する。
- (4) 家庭、地域との連携  
家庭や地域との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるように配慮する。
- (5) 指導と評価の一体化  
目標を達成した児童の具体的な姿を明確にし、指導と評価の一体化を図る。

### 4 学力・学習状況調査等の活用

全国学力・学習状況調査(平成30、31年度調査)では、知識・技能を、実際の自然や日常生活などに当てはめて用いることについて、課題が明らかになっている。

このことから、第3においては、既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめることを通して、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するような事例を掲載している。

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領(編P 122)で示された「指導計画作成にあたっての留意すべき事項」との関連について、吹き出しで本資料において示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年
- (7) 「A 家族・家庭生活」の(4)の指導
- (8) 段階的な題材の配列
- (9) 題材の構成

## 第2 家庭科における学習指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

家庭科においては、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
教科の目標	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

### 2 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる指導の工夫について

資質・能力の育成に当たり、児童が一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、質の高い深い学びを実現させるには、教師の働きかけが重要となる。例えば、ガイドンスで児童に「どのように暮らしたいか」と問うことにより、「家族で仲よく」「健康的に」など見方・考え方を働かせて思考し、発言することが予想される。また、問題解決的な学習の過程で見方・考え方に係るキーワードを課題の中に位置付け、児童がその視点から検討や議論等ができるようにしたり、学習の過程で、児童たちから課題に対して表出してくる様々な「見方・考え方」を基に学習を進めたりすることが考えられる。

### 3 家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

「主体的な学び」においては、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家族や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動などを充実させる。「対話的な学び」においては、児童同士で協働し、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学習を題材などの時間のまとまりの中で効果的に位置付ける。「深い学び」においては、習得・活用・探究という学びの過程の中で、児童が学びの深まりの鍵となる「見方・考え方」を働かせることを通して、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

### 4 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る指導計画の作成について

指導計画の作成に当たっては、題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。以下は、資質・能力を育成する授業設計に必要と考えられる要素を、図としてまとめたものである。

◆題材を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○○○・・・	○○○・・・	○○○・・・

◆資質・能力を育成する題材の授業設計（○時間）

学習過程	生活の課題発見		課題解決に向けた実践活動			実践活動の評価・改善
	第○時	第○～○時	第○時	第○時	第○時	
本時の目標	題材を貫く学習課題：「○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」					
児童の姿	本時で目指す、目標を達成した児童の具体的な姿					
学習活動	本時の目標を達成するための、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく学習活動と児童の姿					
見方・考え方	見方・考え方を働かせるための指導の工夫（発問、場の設定、教材・資料提供の仕方など）					

家庭

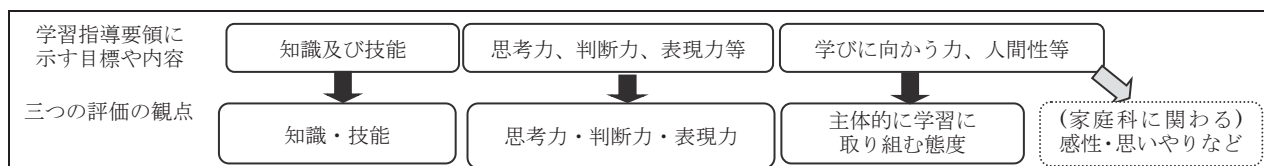
## 5 観点別学習状況の評価の観点について

### (1) 家庭科における学習評価

家庭科では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って育成することを目指している。「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編 (R 1)」(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (R 1)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)等を参考とし、題材の構成に合わせて、評価規準、評価場面、評価方法等を適切に設定し、評価していく。

### (2) 家庭科における観点別学習状況の評価の考え方

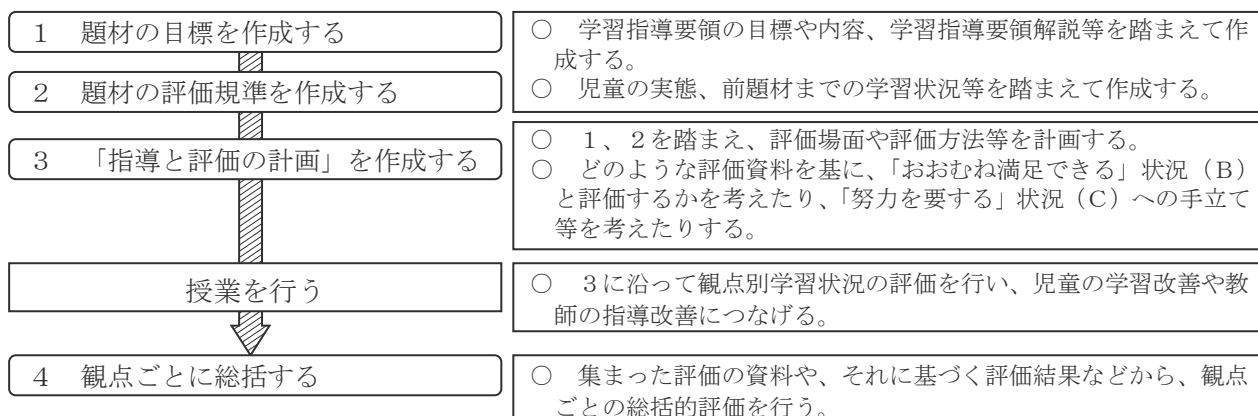
学習指導要領改訂の趣旨を評価に反映させるため、資質・能力の三つの柱に示された目標や内容の再整理を踏まえ、下の図のように「三つの評価の観点」に整理した。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することが求められる。なお、家庭科に関わりの深い「感性や思いやりなど」の観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進歩については、「個人内評価」として実施する。家庭科においては、例えば家族との触れ合いや団らん、高齢者や低学年児童との交流行事などの姿を見取る場合などが考えられる。評価については、実践発表会の際に口頭で伝えたり、家庭や地域での実践レポート等における所見で伝えたりする場合などが考えられる。



三つの評価の観点については、学習指導要領改訂に伴い、次のように改善が図られている。

- |   |
|---|
| ① <b>知識・技能</b> ～家庭科の目標(1)との関わり<br>学習過程を通じた個別の知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり、活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。  |
| ② <b>思考・判断・表現</b> ～家庭科の目標(2)との関わり<br>一連の学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用して思考力・判断力・表現力等を育成し、課題を解決する力が身に付いているかについて評価する。   |
| ③ <b>主体的に学習に取り組む態度</b> ～家庭科の目標(3)との関わり<br>「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と「粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとする側面」から評価する。例えば、家庭科の実習等において、調理や製作の際、技能の習得に苦労したり、計画通りに進まなかったりした場合等、その過程を見直し改善できるように指導し、課題の解決につなげることが考えられる。<br>また、家庭科における主体的に学習に取り組む態度については、目標(3)を踏まえ、「生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度」についても評価することとしている。 |

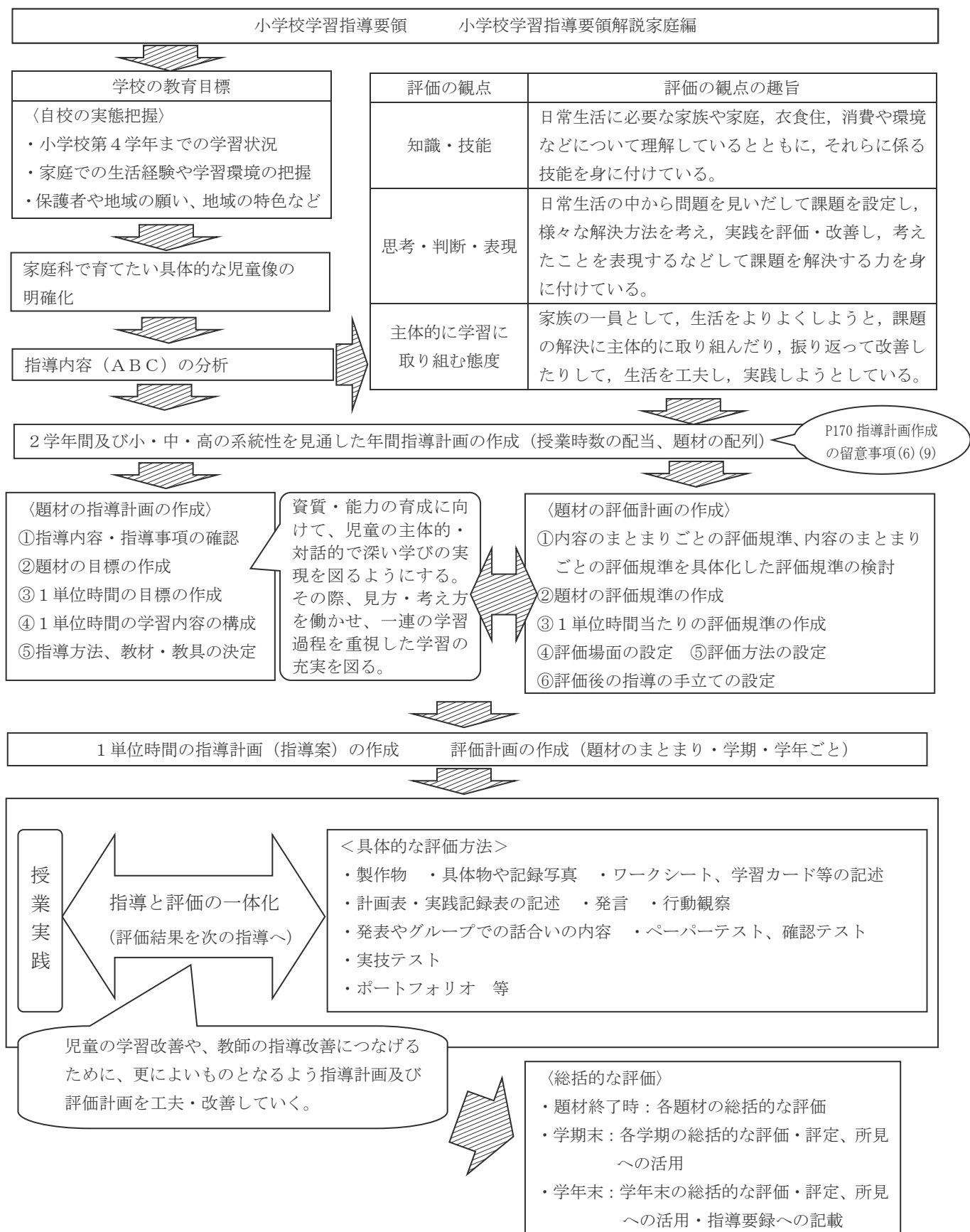
### (3) 家庭科における学習評価の進め方及び留意点





## 6 家庭科における学習評価の手順

新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向け、目標に準拠した評価を図り、学習評価の充実及び指導と評価の一体化をさらに進めていくためには、児童一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要である。指導計画の中に評価計画を位置付け、指導方法の充実や改善を図るとともに、短期的・長期的なスパンで、多面的・計画的・継続的に評価を行うことが大切である。下の図に学習評価の手順を示す。



## 7 評価規準の設定について

※「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」参照

（「事例1『家族や地域のために 心をこめて 小学校を卒業する私にできること』内容A（4）ア」より）

### (1) 題材の評価規準の設定

題材の評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」から題材において指導する項目及び指導事項に関係する部分を抜き出し、評価の観点ごとに具体化、整理・統合するなどして作成する。

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	家族や地域の人々との関わりについて日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、家庭や地域などで実践しようとしている。

「A家族・家庭生活」の（1）「自分の成長と家族・家庭生活」及び（4）「家族・家庭生活についての課題と実践」については、指導事項アのみで構成されている。（1）の評価の観点については、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」、（4）の評価の観点については、家庭や地域などで実践を行い、課題を解決する力を養うことから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」であることに留意する。

### (2) 題材の評価規準の学習活動に即した具体化の検討

#### ①「内容のまとまりごとの評価規準（例）」の具体化の検討

「題材の評価規準」の基となっている「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、【『内容のまとまりごとの評価規準（例）』を具体化した例』を作成する際のポイント】（※）に留意して具体化する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の人々との関わりについて日常生活の中から問題を見いだして、<u>課題を設定している。</u></li> <li>家族や地域の人々との関わりについて、<u>実践に向けた計画を考え、工夫している。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族や地域の人々との関わりについて、<u>課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</u></li> <li>家族や地域の人々との関わりについて、<u>課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</u></li> </ul> <p>粘り強い取組を行おうとしている側面</p>

#### ②題材の評価規準を学習活動に即して具体化

①を基に、学習指導要領解説における記述を参考に、学習活動に即して、具体的な評価規準を設定する。

### (3) 「題材の指導と評価の計画」を作成

小冊子	時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
できるよくなったよ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの家庭科の学習を振り返るとともに、家族や地域の人々との関わりについて考え、感謝の気持ちをもつ。</li> <li>これまでの家庭科で学習したことや自分ができるようになったことを振り返る。</li> <li>家族や地域のために自分ができることを考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①家族や地域の人々との関わりについて日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定している。（行動観察・ワークシート）</li> </ul>	
	2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭や地域を観察した結果から、生活をよりよくするために問題を発見し、課題を設定する。</li> <li>②家庭や地域の様子から、心をこめて自分ができることについて、課題を設定する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>③家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。（行動観察・ポートフォリオ・実践計画表）</li> </ul>
ありがとう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>③家庭や地域での実践計画を立てる。</li> <li>④家庭（地域）の仕事ウォッチングの結果から、仕事の手順や方法を自分なりに考える。</li> <li>⑤グループで話し合い、今までの家庭科の学習を生かして工夫できないかを考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>④家族や地域の人々との関わりについて、<u>実践に向けた計画を考え、工夫している。</u>（実践計画表）</li> </ul>	

## 8 具体的な評価方法とその例

### (1) ワークシート等の記述の評価

ワークシート等の記述をどのように評価するかについて示す（各事例の「4 学習評価の具体例」にも示している）。ワークシートの記述例は「おおむね満足できる」状況（B）及びその理由と、「十分満足できる」状況（A）及びその理由について示した。

<p>「おおむね満足できる」状況(B)の例（実習の観察・ワークシートの記述から） ほうれんそうは火が通りやすいので、ふっとうした湯で、短時間でゆでる。じゃがいものように硬い野菜は、火が通りにくいので、水から時間をかけて中まで火が通るようにゆでる。</p> <p>「十分満足できる状況(A)の例（実習の観察・ワークシートの記述から） ほうれんそうは火が通りやすいので、ふっとうした湯で、短時間でゆでる。ゆであがったらすぐに冷水に取る。水気をよくしぼり、切る。じゃがいものように硬い野菜は、火が通りにくいので、水から時間をかけて中まで火がとおるよう、くずれないようにゆでる。竹串で中まで柔らかくなったか確認する。均等に火が通るように、同じ大きさに切る。</p>	<p>「おおむね満足できる状況」(B)の判断理由 ○野菜の種類に合わせてどのようにしたら上手にゆでることができるかが記述されている。</p> <p>「十分満足できる状況」(A)の判断理由 ○(B)の記述に加え、野菜の特徴に合わせたゆで方について、具体的に記述している。また、ゆでる際の手順について、一連の流れや理由を分かりやすく記述している。</p>
--	---

### (2) 評価後の指導の手立て

評価に応じた具体的な指導の手立てを計画し、それぞれの児童に適切な指導を行う。「努力を要する」状況と判断される児童への手立てについては、展開の中の→で示している（右参照）。

◇材料に適したゆで方を理解しているとともに、適切にできる。 〈知識・技能〉（ワークシート・行動観察・写真）	
おおむね満足できる状況(B)	野菜によってゆで方が違うことや、ゆで方が分かるとともに適切にできる。 →実験の結果を振り返り、確認をさせるようにする。

### (3) 製作及び調理における評価について

2学年間にわたって繰り返し指導する製作や調理に関わる題材を計画する際には、指導内容が学習指導要領の内容項目を網羅しているか確認する。評価においては、重点を置きつつ指導内容を確実に評価するようにする。その際、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから複雑なものへ、段階的に題材を配列する。

【2学年間を見通した調理に関する題材配列】

P170 指導計画作成の留意事項(8)

学年		第5学年		第6学年		
題材名		ゆでる調理法にチャレンジ!	伝統的な日本食であるおいしいごはんのみそ汁を作る	いためて作る朝食のおかず	家族で食べる休日ランチ	
指導内容	B(1)ア		✓		✓	
	B(1)イ				✓	
	B(2)ア	✓	✓	✓	✓	
	B(2)イ	✓	✓	✓	✓	
	B(3)ア			✓	✓	
	B(3)イ			✓	✓	
その他の内容					C(1)ア C(1)イ	
実習題材 (基礎的→応用的)		青菜のおひたし じゃがいも 温野菜サラダ	米飯 みそ汁 (大根、油あげ、ねぎ)	三色野菜いため オリジナル野菜いため	ゆでたり、いためたりするおかず	
(2) 調理の基礎	ア(ア)	材料の分量	◎	◎	○	
		手順	◎	◎	○	
		調理計画	○	◎	◎	
	ア(イ)	用具や食器の安全で衛生的な取扱い	◎	○	○	○
		加熱用調理器具の安全な取扱い	◎	○	○	○
	ア(ウ)	洗い方	◎			
		切り方	○	◎	◎	
		味の付け方			◎	
		盛り付け			◎	◎
		配膳		◎		
	ア(エ)	後片付け	◎		◎	
		ゆで方	◎			◎
	ア(オ)	いため方			◎	◎
米飯			◎			
		みそ汁	◎			

※重点を置く指導内容は◎

(4) 技能の評価について  
本資料の事例2「ゆでる調理法にチャレンジ!」では、材料の洗い方やゆで方等に重点を置いている。調理に入る前に習得すべき技能を児童に明確に示す。児童が自ら習得に向けて学習できるように解決の手立てを示したり、野菜の切り方について見本を提示したりして学習環境を整えておく。そして、技能の習得については、観察や写真の記録等により確認する。児童の相互評価も参考にするなど、より客観的に自己評価ができるようにする。さらに、技能チェックカード等を作成し、教師の評価や児童同士の確認等も書き込み、児童の成長の記録として活用することも考えられる。